

平田地区まちづくり計画

—ひらた**夢**回議—

歴史と水と緑あふれる平田地区
夢を語り未来につなごう！



平田地区まちづくり協議会

平成22年3月

はじめに

平田地区まちづくり協議会は、平成 14 年 6 月 18 日に設置された平田地区まちづくり委員会での活動を継承する形で生まれました。

平田地区まちづくり委員会は、我々の住んでいる地域を、福祉・環境・文化・交流などについて、住民自らが考え、自らの手で活力ある住みよい明るい地域にしていくことを目標に平田地区の新たなまちづくりの在り方を検討し、方向付けを行うための先駆的な取り組みとして平田地区自治会連合会が中心となり設置されたものです。

まちづくり委員会は3年間という短期間での活動でしたが、地域の課題解決のためのまちづくり計画の策定や雪野山歴史公園の活用を高め、地域住民の交流を深める取り組みとしての雪野山歴史まつりの開催、のろし駅伝への参加、地区内の名所旧跡を住民自らが再認識し、来訪者に発信する取り組みとしての歴史・周遊マップの作成、史跡案内板の設置など、今も残る形での活動が展開されてきました。

一方、平田地区まちづくり協議会は、平成 17 年 12 月 23 日の発足以来、会員をはじめ地域の皆様のご協力のもと、広報やふれあい交流、朝市開催、環境保全、里山再生や子育て応援と、また、協議会発足以前から取り組んできた雪野山歴史まつりの継続開催や他のまちづくり協議会に先駆け、地区内の公園を自らの手で管理していこうと「指定管理」を受けるなどさまざまな活動を展開し、地区内外に数多くの発信を行ってきました。

しかし、まちづくりで目指すものが明確に示せていなかったため、地区全体への広がりや活動の高まりに十分につながっていません。また、同様の活動を行っている他団体との連携も不十分であったといえます。

平田地区まちづくり協議会では、少子高齢化や人口減少社会などがもたらす課題の解決のため、地域住民の皆様と将来目標を共有し、その目標に向かって実践していくための羅針盤として「平田地区まちづくり計画」を策定します。

「平田地区まちづくり計画」は、平田地区住民が将来目標に向かって、一丸となって取り組む活動指標を定めたもので、平田地区におけるまちづくりの基本となるものです。

この計画は、今後も地区を取り巻く状況の変化に柔軟に対応するため、一定期間ごとに見直しを行い、常に時代の潮流や地区の実情に対応したものとしていきます。

目次

第1章 平田地区の概要

1	自然・歴史	2
2	社会基盤	3
3	まちづくりアンケートから(平成18年実施)	6

第2章 基本計画

1	基本方針	10
2	キャッチフレーズ	10
3	まちづくりの柱	10
	● いきいき交流のまちづくり	10
	● 安全・安心のまちづくり	11
	● 先人と語り、未来に誇れるまちづくり	11
	● 豊かな自然、うるおいと活力が満ちるまちづくり	11
	● 子育てを地域で応援するまちづくり	12
	● 元気で長生き、長寿を喜ぶまちづくり	12

第3章 推進体制

1	推進体制づくり	14
2	推進体制イメージ図	14

参考

1	まちづくり計画策定委員会 開催経過	16
2	まちづくり計画策定委員会 規約	17
3	まちづくり計画策定委員会 名簿	18

第1章 平田地区の概要

1 自然・歴史

2 社会基盤

3 まちづくりアンケートから(平成18年実施)

平田地区は、東近江市の西に位置し、北西部は瓶割山と雪野山を介して近江八幡市と竜王町に接してします。山林を除く大半の地域が農業振興地域で、平坦な田園風景が広がる農業の盛んな地域です。地区の総面積は約9km²で、地区面積の56%（約5km²）が水田を中心とした農地です。

平地には縄文・弥生・古墳時代の集落跡、下羽田遺跡・上羽田の内堀遺跡があり、また瓶割山・雪野山には古墳群が散在しており、雪野山を中心に二百基以上が確認されています。特に雪野山古墳では、「魏志倭人伝」で魏が倭のために作ったとされる『三角縁神獣鏡』を始めとした考古学上重要な遺物が多数出土しており、古代から重要な地域であったことが推測されます。

古事記・日本書紀には、壬申の乱で將軍として活躍した豪族、羽田君矢(八)国の名が記されており、羽田地域が本拠地であったと言われています。また、瓶割山は柴田勝家が戦で水瓶を割り士気を高めたという伝説からそう呼ばれるようになったとされており、江戸時代には羽田地域に仙台藩伊達政宗の領地が在り、陣屋が置かれていたという歴史ある地域です。

地区内の神社仏閣においては、平安後期を始めとする数々の仏像や、桃山時代の鬼面が受け継がれており、一部は文化財に指定されています。

遠く鈴鹿山系からの地下伏流水が瓶割山・雪野山の岩盤層にあたるため、地下水脈が豊富とされます。龍を奉る上平木町の御澤神社の清水池・白水池・泥水池は、この地の灌漑用に掘られたとされており、干ばつ時にも湧き水が絶えないため、雨乞い祈願や神鏡水が靈験あらたかと信仰され、遠方からの参拝客が後を絶ちません。

下羽田町から雪野山を越えて近江八幡市に至る古道は、平安時代の女流歌人である和泉式部が雪野寺に詣でた帰りにこの坂を越え、雪野寺の鐘を聞いて歌を詠ったことから「歌坂」と呼ばれています。また、中羽田町から竜王町へぬける山越えの道は、竜王寺の『龍鐘』と御澤神社の白水池にまつわる悲恋物語の伝説から「女坂」と呼ばれ、「歌坂」と並んで時の流れを身近に感じさせる山道です。



平田地区全体の航空写真



御澤神社



雪野山古墳石室



雪野山歌坂

平田地区の総世帯数は平成 21 年 10 月 1 日現在で 968 戸、人口 3,365 人(男 1,660 人、女 1,705 人)で、地区内には 12 の自治会が組織されています。

町別の人口の推移(後記の棒グラフ:昭和 50 年、平成 7 年、12 年、17 年は国勢調査、平成 21 年は住民基本台帳の数値)を見ると、今から 34 年前の昭和 50 年から平成 7 年の 20 年間に大きく増加しているのは、上平木町、平田町、柏木町と下羽田町で、これらの町ではそれぞれ宅地造成や住宅開発が行われています。それ以外の町では大規模な宅地造成は行われておらず、ほぼ横ばいで推移しています。このような開発の影響で、平田地区全体で人口は 567 人、18.0%増加しています。

しかし、平成 7 年以降は、各町とも着実に人口減少をたどっており、平成 21 年までの 14 年間では平田地区全体で 346 人、9.3%減少しています。

また、その間の 15 歳未満の人口減少はより顕著で 302 人、39.6%も減少しています。そのような中において、平成 17 年から 21 年の 4 年間に、下羽田町が唯一人口を増加させており、また、上平木町と下羽田町では 15 歳未満の構成比を高めている点が注目されます。この 2 町のおかげで平田地区全体でも 15 歳未満の人口は横ばいで、構成比では増加しているのです。

しかし、グラフには表れていませんが、6年後の平田地区の小学生は約 170 人になり、今の約 240 人から 3 割程度減少する見込みです。最近の平田地区の小学生は各学年 40 人前後で推移していますが、昨年度の 0 歳児は初めて 20 人を割り込み 19 人となりました。こういった現実の数字、少子化の現状を認識し、向き合い対応を検討していかななくてはなりません。

一方、65 歳以上の人口は各町とも着実に増加してきており、平成 7 年から 21 年までの 14 年間で、平田地区全体では 142 人、21.1%増加しています。

ここでも、平成 17 年から 21 年の 4 年間に、上平木町と下羽田町が 65 歳以上の人口を大きく伸ばしている点が目を引きますが、他の町では構成比は増加してきているものの実人口では横ばいとなっています。



史跡等案内看板



まちあるき

平田地区まちづくり委員会
H14~H17

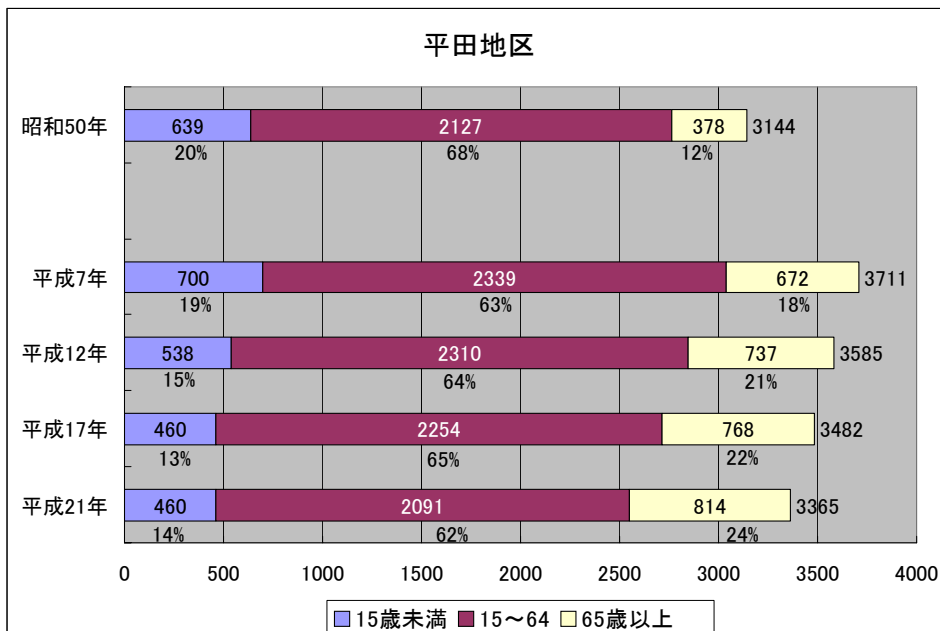
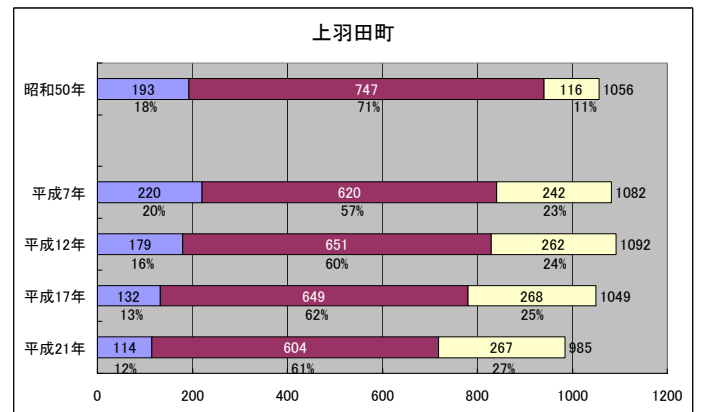
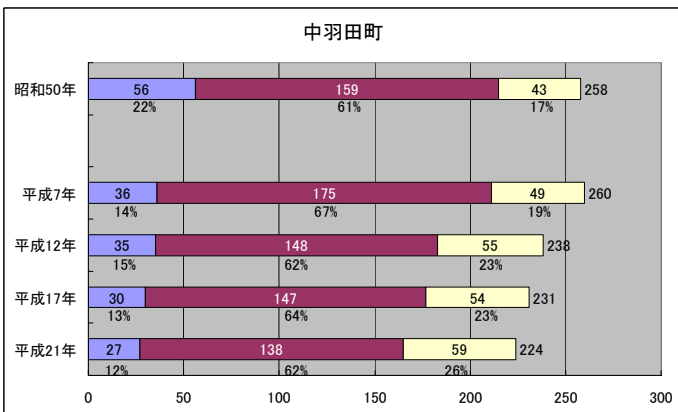
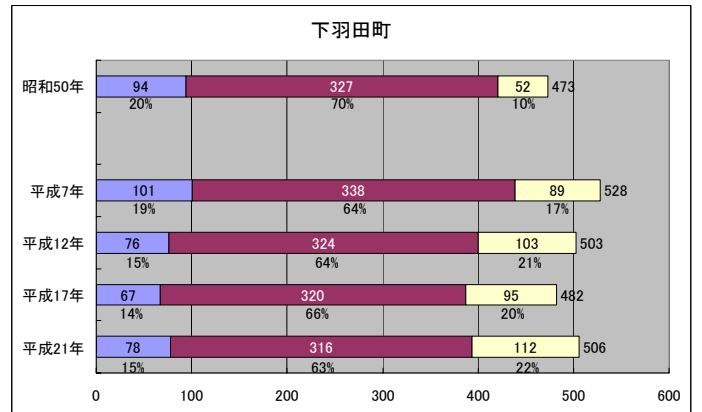
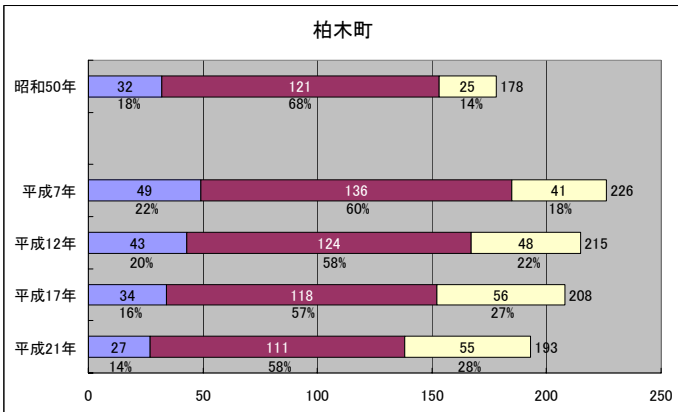
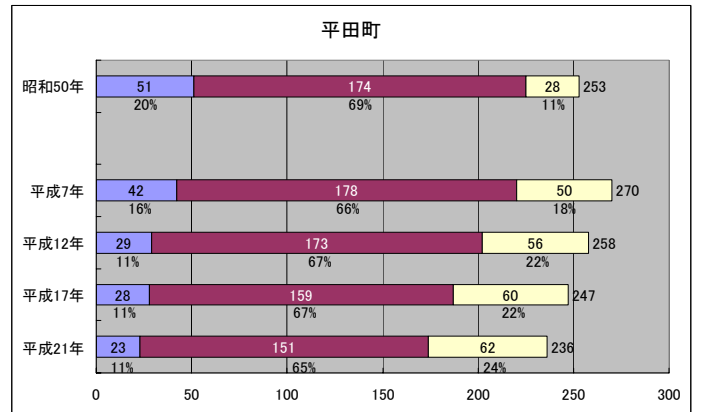
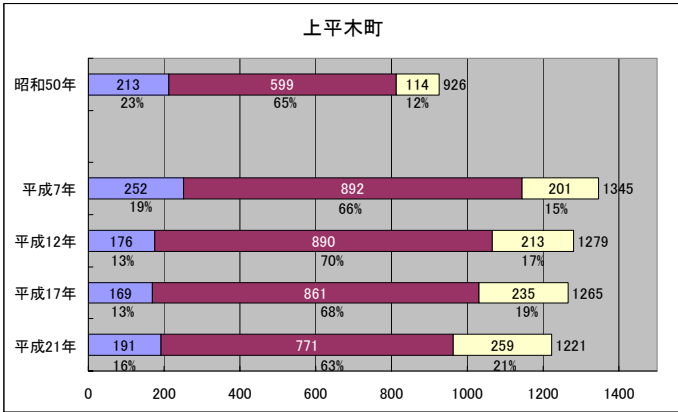


歴史・周遊マップ



雪野山歴史まつり

平田地区の町別人口の推移



交通面では主要地方道土山・蒲生・近江八幡線（通称日八線）が区内を縦貫し、区内往來の主要道であると共に、公共交通バス路線でJR近江八幡駅へのアクセス道路でもあるため就業者・通学者の主な通勤通学路線となっています。

区内を走るもう一つの県道下羽田・市辺線と市道新六ツ木線が市辺地区や八日市市街に通じる主要道となっていますが、歩道を含め道路の整備状況は十分とは言えず、都市計画街路近江八幡八日市線の整備が待たれます。

公共交通機関としては近江鉄道が平田町を通過しており、平田駅が設置されているものの北端に位置していることから平田地区全域をカバーする公共交通機関にはなっていません。また、近江バスが近江八幡・日野方面に運行しているのと、ちょっとバスが八日市方面に運行中ですが、利便性に乏しいため、主要交通手段は自動車と自転車となっています。

区内には商業施設はほとんどなく、小売店が各町内に点在する程度で、八日市や近江八幡の市街地へ買い物に出かけることが多く、交通手段と道路事情から近江八幡方面への流動が多いといえます。

公共的な施設としては、駐在所、郵便局、医院、農協、コミュニティセンター、幼稚園が地区のほぼ中心の下羽田町地先に設けられています。また、平田小学校の運動場跡が平田グラウンドとして地域スポーツに活用されており、体育館として「トレーニングセンター」が併設されています。公園としては雪野山歴史公園や華岳山公園が整備されており区内外から多くの人たちが訪れています。また、各自治会で整備された公園では、老人クラブを中心にしたゲートボール・グラウンドゴルフが活発に行われています。

宅地開発は、鳴谷地区が昭和 50 年頃、野端地区が昭和 45 年頃に行われていますが、その後は大規模な開発は行われておらず、急激な人口の増加は無く、また、社会的な流入出も少ないため、顔見知り間の付き合いが深く、コミュニティセンター事業などに対する協力意識が高い地域で、自治会を中心に多くの事業が展開されています。



雪野山歴史まつり



里山再生活動

平田地区まちづくり協議会
H17～



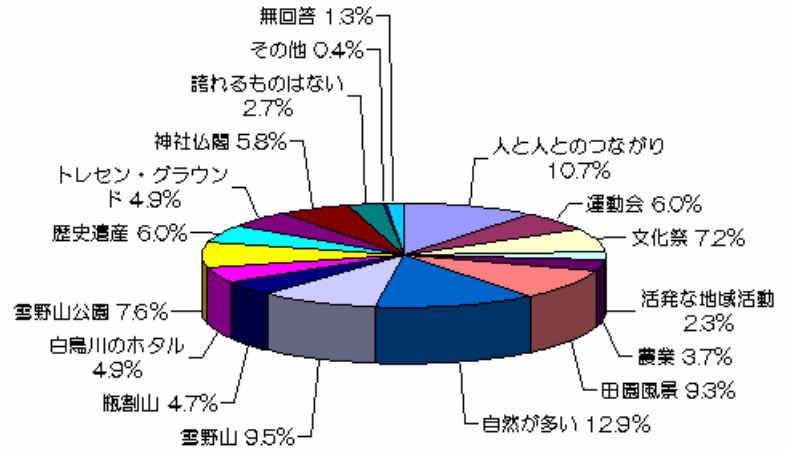
子育て応援活動



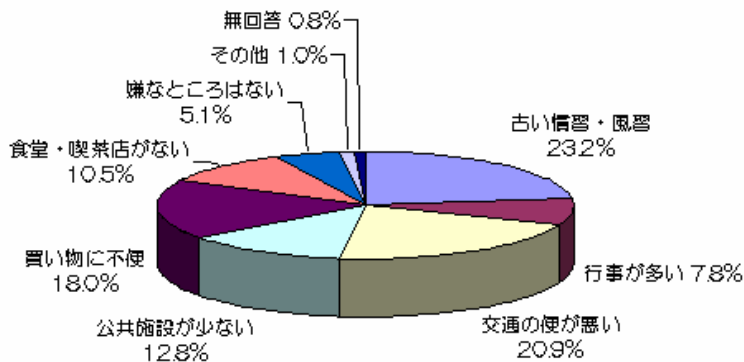
ひらた夢朝市活動

- 平田地区で誇れるものとしては、田園風景、雪野山、瓶割山をはじめとした自然景観があげられ、また人と人とのつながりといったものも多くなっています。一方、嫌なところとしては、古い慣習や風習が多く、次いで交通の便が悪いことやお店の少なさから買い物に不便なことがあげられています。

B-3 あなたが、平田地区で誇れるものは何ですか？

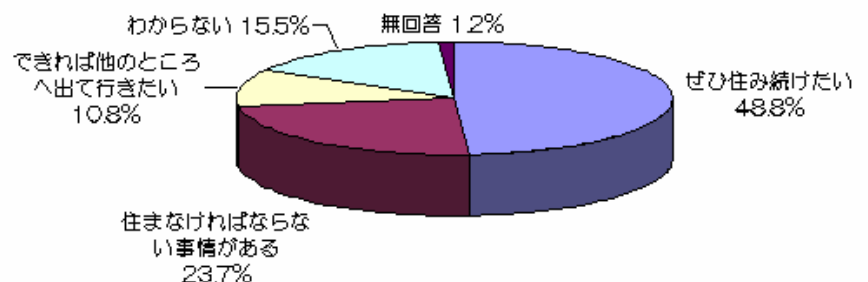


B-4 あなたが、平田地区の嫌なところは何ですか？



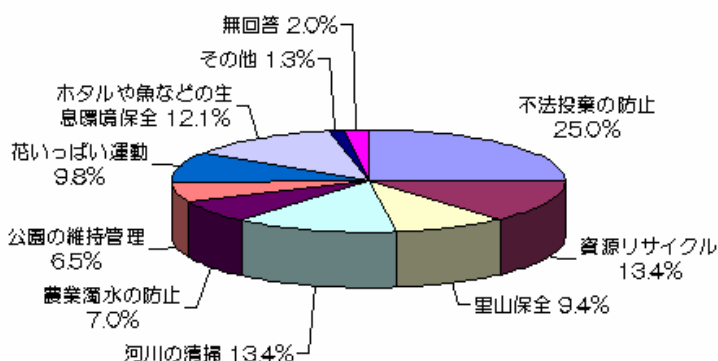
- 住みやすさや今後も住み続けたいといったことについては、高い支持がみられます。ただ、住まなければならない事情があるといった消極的な意見も少なくなく、特に若い世代で多く見受けられます。若い世代では、地域に愛着を持たず、他の地域へ出ていきたいと考える方も多く、次代を担う若い世代が住み続けたくなるまちづくりが必要です。

B-7 あなたは、これからも平田地区に住み続けたいですか？



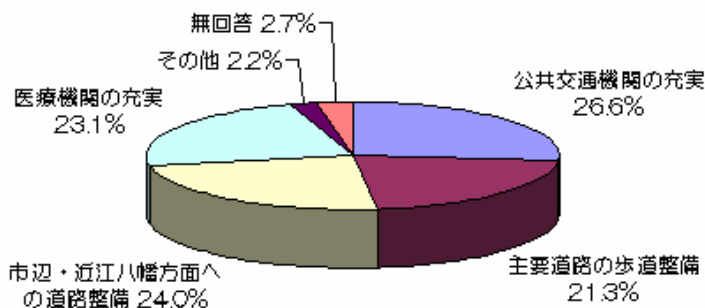
●環境保全のための取り組みとしては、不法投棄の防止や資源リサイクル、また、河川の清掃や里山保全が必要との意見が多くみられました。ホタルや魚などの生息する自然環境保全や花いっぱい運動の意見も多くみられ、今後の活動の広がりが期待されます。

C-1 あなたは、身近な環境保全のため
どんな取り組みが必要だと思いますか？

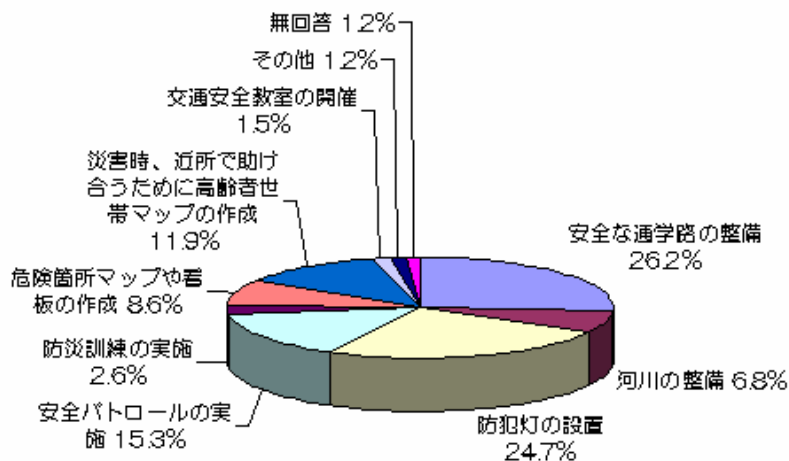


●利便性の向上や安全安心のためのまちづくりに必要な取り組みとしては、若年層や高齢者では公共交通機関の充実や歩道の整備、安全な通学路の整備が求められており、医療機関の充実も全体を通じて多く求められています。

C-2 あなたは、平田地区の生活利便性向上のため
何が必要だと思いますか？

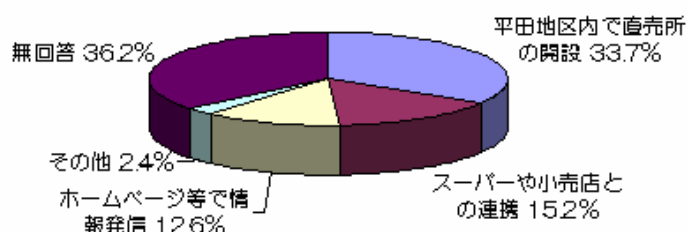


C-3 あなたは、より安心安全な平田地区にするため
何が必要だと思いますか？



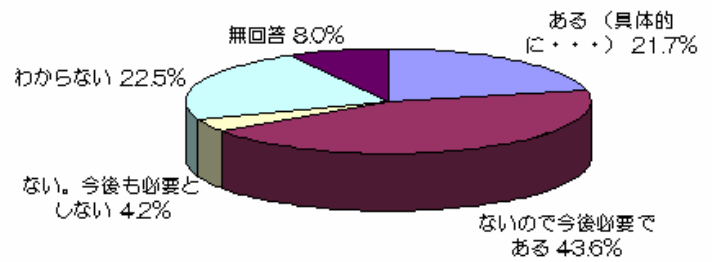
●特産品づくりの面では、お米や野菜といった農産物を中心とした意見が多く出されており、高年齢になるほど必要性が多く求められています。朝市の充実が求められます。

D-2 あなたは、4-1の特産品をPRするには
何が必要だと思いますか？



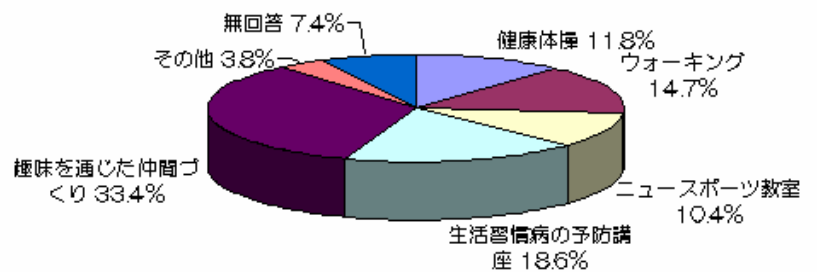
●子育て支援では、保育施設や安全な遊び場所の充実、子育ての仲間づくりが求められています。また、地域の人たちの見守りや手助けも多く、地域ぐるみでの子育ての必要性が感じ取れます。

F-1 あなたには、子どもと安心して遊べる場所は平田地区内にはありますか？



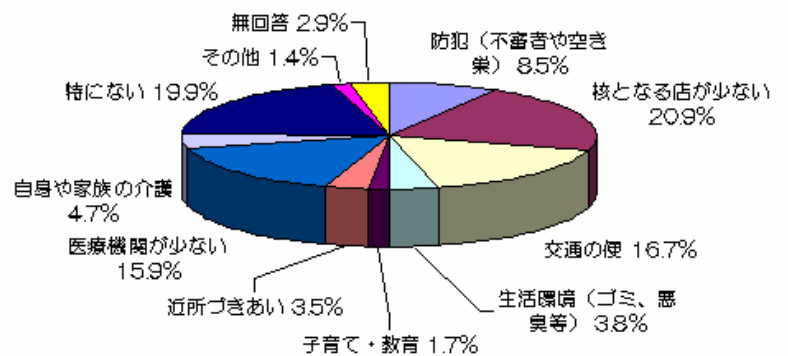
●健康面では、健全な食生活に取り組んでいる人が多く、スポーツやウォーキングへの取り組みとともに、趣味を通じた仲間づくりや生活習慣病の予防講座が求められています。

F-4 あなたは、健康づくりのために地域でどんな取り組みが必要だと思いますか？



●暮らしの中で困っていることとしては、商店や医療機関の少なさとともに交通の便の悪さが多くあげられています。一方、自身や家族の介護といった面での不安も多く出されています。

G-2 あなたが、日々の暮らしで困っていることはありますか？



環境保全活動
白鳥川かいどり大作戦

平田地区まちづくり協議会
H17～



環境保全活動
白鳥川粗大ゴミ回収

第2章 基本計画

1 基本方針

2 キャッチフレーズ

3 まちづくりの柱

1 基本方針

平田地区のまちづくりは、従来から自治会連合会を中心とした様々な団体や組織で行われており、すでに成熟した形で自治組織が自主的に運営してきました。

しかし、新しい地域課題に対応するためには、このような各種団体やまちづくり協議会が協力し合い、まちづくりにおける役割を果たし、持続的な活動を進めていく必要があります。

まちづくり協議会は、地区の課題を住民自らが掘り起こし、地区住民が共有するまちづくりの目標に向かって、各種団体等と連携して活動でき、多くの住民が自由にかかわることのできる組織づくりを行います。また、平田地区の歴史・文化的資産を見つめ直し、先人たちの足跡をたどりながら、住民一人ひとりの個性が尊重され、元気な活力のあるまちづくりを行います。

2 キャッチフレーズ

「歴史と水と緑あふれる平田地区、夢を語り未来につなごう！」

3 まちづくりの柱

◆ いきいき交流のまちづくり

社会基盤で第一の課題としてあげられるのが、少子高齢化とそれに伴う人口減少です。通勤圏内に就業しているにも関わらず若い世代が地域を出ていくことは、地区内の少子高齢化をより一層進展させます。若い世代が住み続けたいと思う魅力ある地域にしていく必要があります。

生活様式や価値観が多様化してきている中で、地区内には伝統を守り育てる姿勢が古い慣習として残り、若い世代が住み続けたいと思う魅力に欠ける面が見受けられます。柔軟な姿勢で多様な生活スタイルを互いに認め合うことが必要です。

また、暮らし易さの面からも交通基盤の整備も待たれます。近く設置が予定される蒲生スマートインターやそれに伴う県道の整備、また都市計画街路近江八幡八日市線の整備により他の地域との交流がより活発化し、住環境としても魅力ある地域となることが期待されます。

- 世代間が交流し、認め合うまちづくりを進めます。
- 地域間が交流し、豊かな生活基盤を整えます。
- コミュニティセンターやトレーニングセンターをまちづくり協議会で管理し、地域活動がより活性化する地域交流の拠点づくりを目指します。
- まちづくりの情報発信を行います。

◆ 安全・安心のまちづくり

農村地域とはいえ、近年犯罪の増加が見られます。また、子ども達の登下校時の安全が脅かされています。地域での見守り体制を確立し、地域の安全・安心は地域住民で守っていかなくてはなりません。

また、自動車の増加に伴い歩道整備など通学道路の安全がより一層求められており、防犯灯の計画的な設置を含めハード面での整備が急がれます。

一方、全国的にも各地で集中豪雨や地震、台風などで大きな災害が頻発しており、このような災害への備えも必要となっており、今までにも増して地域のつながりを強くしなければなりません。

- 地域住民の交流を深め、防犯体制を確立します。
- 通行危険場所などを調査・点検し、誰もが自由に行動できる生活環境を整えます。
- 地域の見守隊により、子供たちの安全・安心の確保に努めます。
- 各自治会における自主防災組織づくりを進めます。

◆ 先人と語り、未来に誇れるまちづくり

雪野山歴史公園や華岳山公園の管理をまちづくり協議会が指定管理により行うこととなり、こまやかな点にまで目の行きとどく管理が出来るようになっていきます。雪野山や瓶割山などに手を加え、雪野山古墳群や瓶割城址をはじめとした史跡などを多くの人たちが気軽に訪れていただけるようにします。

- 地域の歴史・文化を調べ、史跡や社寺を訪ね歩くルートを広く紹介します。
- 雪野山や瓶割山山麓一帯に散策路を整備します。
- 雪野山歴史公園や華岳山公園の管理をまちづくり協議会が指定管理により行い、地域の利用者にとってより使いやすい施設となるように工夫を重ねます。

◆ 豊かな自然、うるおいと活力が満ちるまちづくり

平田地区で誇れるものとしては、緑あふれる田園風景や自然景観があげられます。しかし、近年、イノシシやシカ、サルなどの獣害も頻繁に発生するようになっており、農作物への被害も多くなっています。自然を放置するのではなく、一定の管理を行い獣害などの発生を抑制しなければなりません。

一方、農業就業者の高齢化が叫ばれはじめて 20 年以上が経過します。当時に比べても高齢化はさらに進展し、また農家戸数の減少も見受けられます。近年は、集落営農に取り組む集落や大規模化に取り組む担い手農家も出始めており、それぞれの地域に応じた営農体系の合理化が少しずつではありますが進展しています。また、地場産野菜などの朝市開催も定着してきており、地産地消の推進や地域農業の担い手による農地や農村景観の保全が期待されます。

- 魅せる農業を展開し、地域の特産づくりを進めます。

- 地域で生産された作物を地域で消費する地産地消を進めます。
- 山道の整備や竹林の伐採、下草刈りを行うなど、里山再生を進めます。
- きれいな水路を再生し、美化に努め、魚のすめる水環境を整備します。
- 環境に配慮した資源循環型生活環境の実現に努めます。

◆ 子育てを地域で応援するまちづくり

子育てをするうえで以前と変化してきた点としては、共働き世帯の増加と核家族化があげられます。また、少子化に伴い子供会活動や PTA 活動、幼稚園への送り迎えなどで、保護者一人ひとりにかかる負担が増加してきており、悩みなどを相談しあえる仲間が減少してきています。

さらに、子どもたちも同年齢や異年齢の友達との交流の場が少なく、仲間遊びの機会が少なくなってきました。

子どもは地域の宝です。子どもたちが健やかにのびのびと育つよう、また、安心して子育てができるよう、隣近所や地域のつながりを密にし、地域の子どもたちは地域で育てるといった思いをより強くし、子育てを応援していかなくてはなりません。

- 幼い子供を抱える親同士が交流し、育児に対する悩みや不安、喜びなどを自由に情報交換できる場を提供します。
- 未就園の子ども同士と一緒に遊べる場を提供します。
- 子どもたちが地域の自然の中で遊び、学べる活動に取り組みます。

◆ 元気で長生き、長寿を喜ぶまちづくり

少子化とともに高齢者の増加は地域の課題として取り上げられています。長寿そのものは課題としてとらえられるべきものではありませんが、高齢者の増加に伴い、介護の問題や健康管理、生きがいといった様々な対策が必要です。

平田地区には介護施設は全くなく、福祉施設も十分ではありません。すべての人たちが住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることができるよう、地域が助け合う福祉のまちづくりを進めます。

- ひとり暮らし等の高齢者が地域で孤立することのないよう、ふれあいのしくみづくりを推進します。
- 高齢者の持つ技能や知識を活かし、地域活動にかかわってもらえるシステム作りを進めます。
- ウォーキングやふれあいサロンなどで認知症や寝たきりの予防のための健康づくりを推進します。

第3章 推進体制

1 推進体制づくり

2 推進体制イメージ図

1

推進体制づくり

平田地区まちづくり計画は、地域の課題や地域の目指すべき将来像として基本方針を設定し、まちづくり施策を提案するものです。

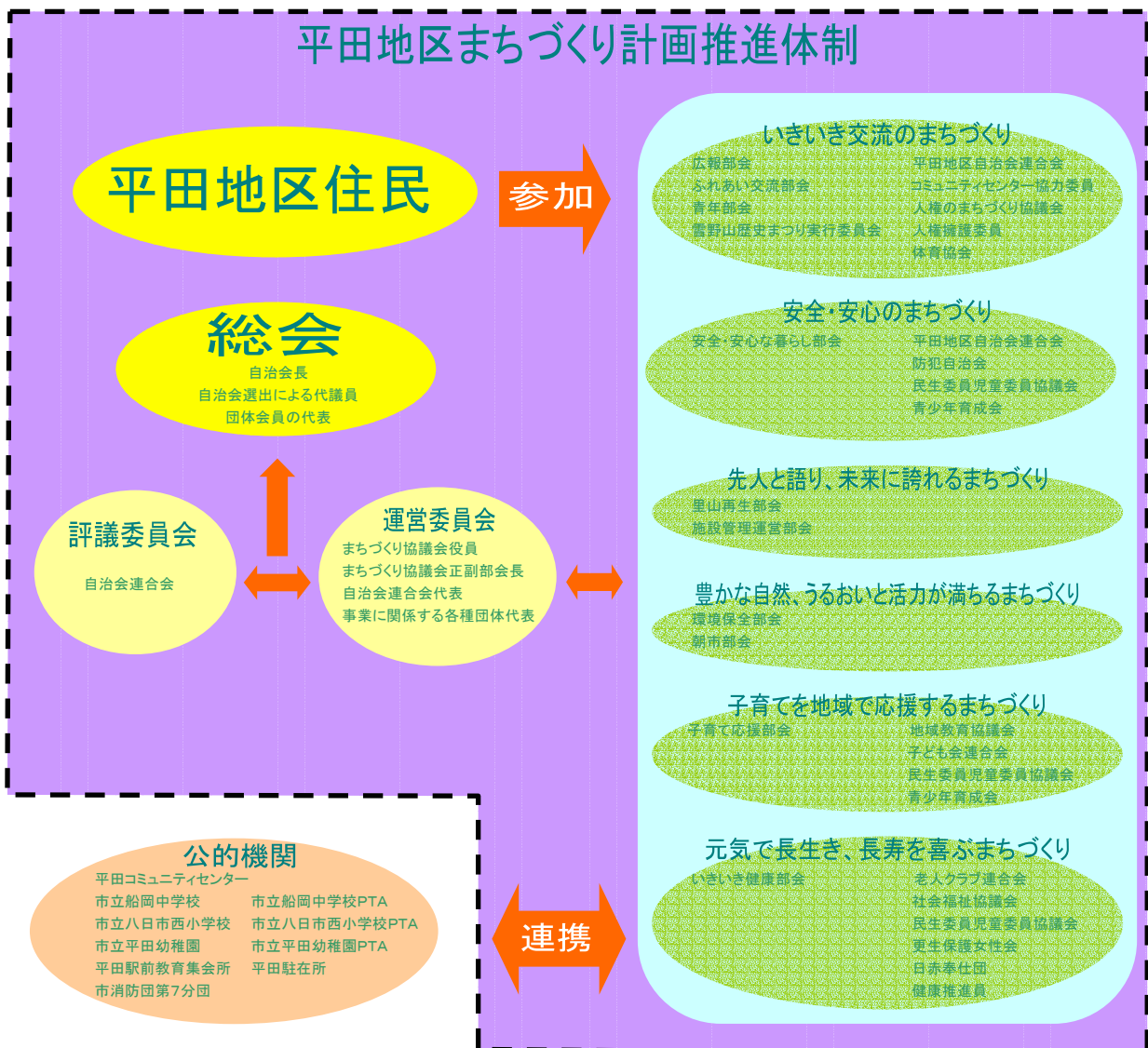
今後、平田地区のまちづくりを具体的に進めていくには、情報収集、目的の共有、連携母体の自立と理解、自主性・自発性・自律性の尊重が基本となり、地域住民、各種団体など多くの人々の協力と長期的・継続的な取り組みが不可欠で、まちづくりを実りあるものとするためには、地域住民が一丸となって活動できる関係を構築する必要があります。

また、協議会は、行政との協働のまちづくりを推進する組織として、また、現在行われている自主的なまちづくり活動を、他の課題にも対応できる活動に展開していくことで、地域全体としてのまちづくりへ広がることを目指しています。

協議会は、平田地区のまちづくりを進めていく上で、いわばプラットフォームとなる場であり、様々な課題への新たな取り組みへのスタート地点です。多くの人々の交流の場となることが望まれており、平田地区住民が参画しやすい組織となるよう、その推進体制の充実を図ります。

2

推進体制イメージ図



図中の団体名は仮に想定したものです。

参 考

1 まちづくり計画策定委員会 開催経過

2 まちづくり計画策定委員会 規約

3 まちづくり計画策定委員会 名簿

まちづくり計画策定委員会 開催経過

平成 21 年

6月15日	◆ まちづくり計画策定委員会企画部会(仮称) 設置 ・平田地区の将来目標を定め、実践していくための羅針盤として「平田地区まちづくり計画」策定に向け準備組織を設置。
7月16日	◆ まちづくり計画策定委員会企画部会(仮称) 開催 ・まちづくり計画策定委員会設置に向け準備。
7月19日	◆ 第1回まちづくり計画策定委員会 開催 ・まちづくり計画策定委員会を設置。
9月24日	◆ まちづくり計画策定委員会企画部会 開催 ・まちづくり計画(案)の作成作業を開始。
10月10日	◆ まちづくり計画策定委員会企画部会 開催 ・まちづくり計画(案)の作成作業。
11月19日	◆ まちづくり計画策定委員会企画部会 開催 ・第2回まちづくり計画策定委員会の準備。
12月6日	◆ 第2回まちづくり計画策定委員会 開催 ・まちづくり計画(案)について、検討・修正を行う。
12月21日	◆ まちづくり計画策定委員会企画部会 開催 ・まちづくり計画(案)について、計画の推進体制も含め検討・修正を行う。

平成 22 年

1月27日	◆ 第3回まちづくり計画策定委員会 開催 ・まちづくり計画(案)について、最終案がまとまる。
-------	---



第1回 まちづくり計画策定委員会



第2回 まちづくり計画策定委員会



第3回 まちづくり計画策定委員会

(目的)

第1条 平田地区まちづくり協議会(以下、協議会という。)が地域課題を解決し、地域の個性を活かしたまちづくりを進めるため、地区の課題を住民自らが掘り起こし、地区の将来あるべき姿(将来像)を思い描き、これを地区住民が共有して活動に取り組むことが大切である。

このため、本委員会は、協議会の活動方針や活動内容等を協議し、共通の道標としての「平田地区まちづくり計画」を策定することを目的とする。

(所掌事項)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を協議する。

- (1) 平田地区の現状と課題
- (2) 平田地区の将来像
- (3) 基本方針や具体的な施策、事業
- (4) 計画推進体制

(組織)

第3条 委員会は、別表1の委員をもって構成する。

- 2 委員会に委員長1名、副委員長1名を置くこととし、委員の互選によって定める。
- 3 委員長は、委員会の議長となり、副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会は、委員長が招集し、3回程度開催する。

- 2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

(企画部会)

第5条 委員会に、その所掌事項を分掌させるため、企画部会を設けることができる。

(事務局)

第6条 委員会にかかる事務は、平田地区まちづくり協議会事務局において処理する。

(その他)

第7条 この規約に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

付則

この規約は、平成21年7月19日から施行する。

平田地区まちづくり計画策定委員会 名簿

氏名	所属等	備考
大澤 隆蔵	自治連合会会長、防犯自治会会長	◎
古澤 健二	平田地区まちづくり協議会会長	○
内堀 稔	自治連合会・まちづくり協議会副会長	
木村 一博	自治連合会・まちづくり担当	
長田 亮	人権のまちづくり協議会会長	
伊藤 市次郎	老人クラブ連合会会長	
大林 富治郎	民生児童委員協議会会長	
藤本 治	社会福祉協議会会長	
西口 笑子	更生保護女性会会長	
村防 悦子	赤十字奉仕団平田分団長	
西條 貞三	体育協会会長	
中島 てる代	健康推進員	
周防 清二	青少年育成会会長、地域教育協議会会長	◇
板谷 重巳	子ども会連合会会長	
城野 勝太郎	平田コミュニティセンター館長	◇
小島 嘉夫	コミュニティセンター協力員代表	
小澤 文吾	更生保護司	

氏名	所属等	備考
平井 康博	農業委員	
中江 健祐	市消防団第7分団長	
久田 喜一	市立船岡中学校長	
高橋 守	市立八日市西小学校長	
大原 洋子	市立平田幼稚園長	
久保 栄一	市立船岡中学校 PTA 会長	
長田 吉雄	市立平田幼稚園 PTA 会長	
藤本 健一	平田地区まちづくり協議会副会長	
小澤 維久子	〃 副会長	
伊藤 勝悟	〃 会計	
西村 良三	〃 里山再生部会長	
前坂 美代子	〃 子育て応援部会長	◇
松谷 二郎	〃 施設管理運営部会長	
板内 保久	〃 広報部会長	
藤田 善久	〃 会員	◇
大國 勉	〃 会員	◇

◎:委員長 ○:副委員長 ◇:企画部会構成員



平田地区まちづくり協議会

〒527-0085 東近江市下羽田町 84 番地5

電話 0748-22-1950 IP 電話 050-5801-1950

FAX 0748-22-1950

HP <http://hiratayumekaigi.web.fc2.com/main1.html>